

## 23 発達障害に関する学習ニーズ調査

学院 児童指導員科 関 剛規、川渕 竜也

### I、はじめに

発達障害の支援においては、虐待やいじめ、不登校など対応が難しい事例との親和性が高いことが報告されており、多職種・多領域が連携して取り組むことが極めて重要とされている。今後の障害児支援の在り方について（報告書）（2014）と家庭と教育と福祉の連携「トライアングル」プロジェクトチーム報告（2018）では、連携を前提とした今後取り組むべき方向性が明示されている。発達障害の支援者を養成する当科では、昨年度、医療・福祉・教育分野の関係者に発達障害支援の現状と学習ニーズについてインタビューを行った。その結果、共通する課題として支援の困難さと深刻な人材不足が挙げられ、現職者の発達障害に関する学習ニーズの高さが確認された。このようなニーズに応えるべく当科では本年度より現職者を対象に「特定研修生」の受け入れを開始したが、定員を満たす状況には至っていない。そのため、さらに現場のニーズに見合ったカリキュラムを検討するべく、発達障害に関する学習ニーズについて改めて調査することとした。

### II、調査の目的と内容

#### 【目的】

発達障害に関する学習ニーズと支援状況について明らかにする。

#### 【対象】

福祉分野と教育分野における研修会参加者、埼玉県内の児童相談所、学校、保育所、

#### 【質問項目】

1. 国立障害者リハビリテーションセンターについて
2. 発達障害に関する学習ニーズについて
3. 発達障害に関する学習方法・機会とその満足感について
4. 発達障害（疑いを含む）に関する支援と支援目標の達成度について
5. 発達障害（疑いを含む）との併存とその困難感について
6. 進学・内地留学・長期研修等による発達障害に関する学習に期待すること（自由記述）

### III、今後の課題

それぞれの現場では人材不足が続く中、サービスの質の向上が求められている。今回の調査結果から、発達障害に関する学習ニーズと現行カリキュラムとの関係性を検証し、人材養成の視点から、継続的に学ぶためのキャリア教育について検討する。